

ペインティング ジャーナル

PAINTING JOURNAL Vol.14

塗装その先の未来

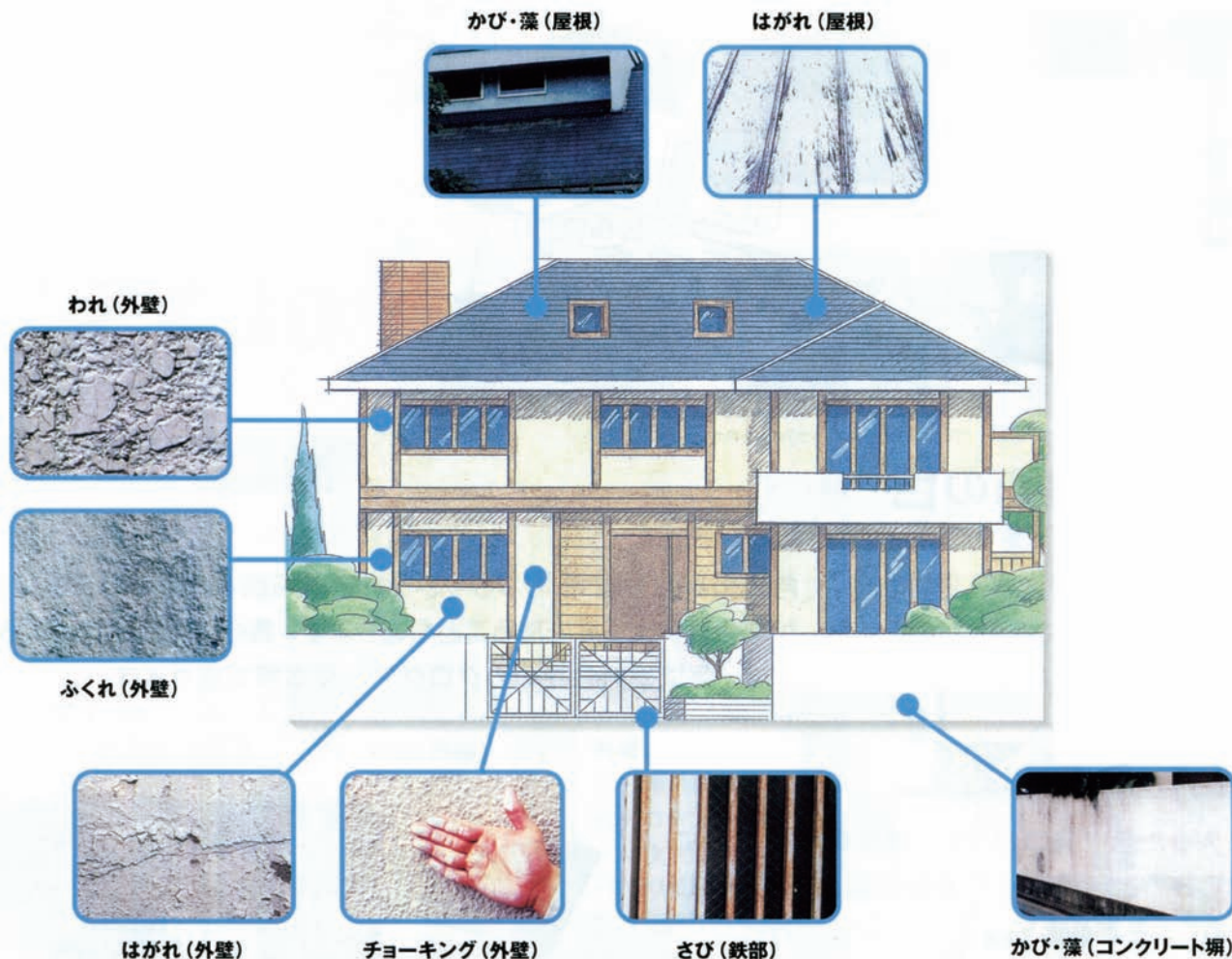
塗り替えの 必要性



塗装で彩る新時代

公益社団法人 神奈川県塗装協会

塗替えのポイント



～塗替えを判断するポイント～

- ★家全体に汚れ、チョーキング、色あせ、つや引けなどがみられ、外観上見苦しい状態が目立ってくる。
- ★建物の目視観察で、塗面の多くに、われ、ふくれ、はがれ、さびなどが発生し、建物まで傷みがおよんでいる。
- ★一般的な経過年数。 などを組み合わせ判断してください。



建物の汚れが気になり出したら要注意

汚れ

チョーキング



汚れ(かび・藻)やさび、チョーキング(手で触ると白い粉がつく)が目立つ。

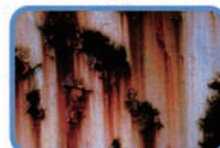
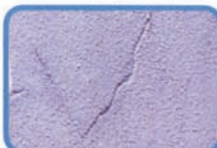


塗膜の傷みははっきりと目立ち始めたら早めの塗替えを

われ

はがれ

さび



外壁や屋根、鉄部に、われ、はがれ、ふくれ、さびなどがかなり目立つ。

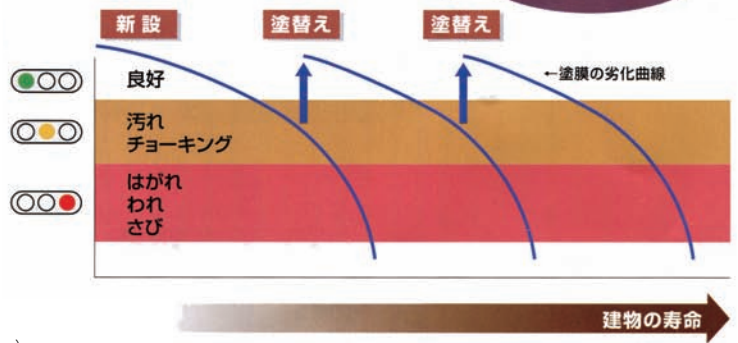
塗膜の傷みを放置すると、塗膜の異常だけでなく、さらに建物自身まで傷みが進むことが予想され、建物表面の塗膜に不具合が見られたら、早めに塗替えなどの手当てを。

標準的な塗替え時期の目安

塗装箇所	経過年数
建物外壁(リシン)	5
建物外壁(吹付けタイル)	6
建物外壁(弾性吹付けタイル)	8
屋根(カラートタン)	10
屋根(新生瓦)	10
金属部(てすり、鉄扉など)	5
木部(柱、破風、窓枠など)	3

標準的な場所の建物を記載しています。(あくまでも目安ですので参考にしてください)

建物の塗替えのサイクル



塗替えを決めたら



事前の情報収集が
上手な塗替えの
ヒケツ。



STEP1 情報収集

ご近所の評判、インターネット、電話で情報を収集。

POINT1

**業者まかせではなく、
まず自分の希望を整理**

塗替えにかかる費用、建物に塗る塗料の色・模様・種類など多くの情報を集め、ご自分の塗替えの希望を整理し、専門業者と相談する。



STEP2 プラン作り

塗替えプランの整理 (予算、塗料の色・模様・種類) と塗装業者を探す。

POINT2

信頼できる塗装業者を

信頼できる塗装業者を選ぶことが、塗替えの成功のカギ。
口コミやインターネット、塗装・塗料の業界団体に確認するなど、様々な方法で情報を収集。

STEP3 見積り・契約

3社以上から見積りを取り、比較しましょう。
口頭ではなく、必ず契約書の取り交わし。

STEP4 塗装工事

工事前に、ご近所への挨拶を。
工事の進み具合を確認。

STEP5 引渡し

塗装業者と一緒に
仕上がり具合を確認。

塗装用語



弱溶剤、強溶剤	合成樹脂などに対する溶解力の「高い・低い」により、溶解力の高い芳香族炭化水素系溶剤（キシレン、トルエンなど）などを強溶剤と呼び、溶解力が低く比較的低臭であるミネラルスピリット（ターペンとも呼ばれる）などは強溶剤と区別して弱溶剤と呼ばれる。また、弱溶剤は、強溶剤より光化学反応性の低い有機溶剤といわれている。
リシン	外観は砂壁状仕上げで、水性でつやがないものが多い。内外装のどちらにも使われ、水蒸気透過性が高いので膨れなどが起きにくく、コストも安いので、軒裏で使用される場合が多い。つやがないので光沢低下はないが、外装に濃色のものを使用した場合は色落ちが比較的是やく生じる。
単層弾性	建物の外壁に、特殊ローラーや吹付け機で塗ることにより、さざなみ状模様や凹凸状模様に仕上げる主材と上塗材を兼用した塗材をいう。軟質タイプで、下地に発生する比較的小さなひび割れに対する被覆能力がある。
さび止め塗料	金属系素地に対してさびを防ぐ目的で塗装する塗料をいう。従来は、さびを防ぐために、鉛系、クロム系などの重金属系顔料がさび止め顔料として用いられていたが、最近では鉛系やクロム系のさび止めの顔料を用いない鉛・クロムフリーさび止めペイントが主流になってきている。
アクリル樹脂系塗料	アクリル樹脂系塗料は、設計により軟質のものから硬質のものまで調節することができ、又、1液形で使いやすくコストパフォーマンスにも優れていることから、最も広範囲に使用されている塗料である。耐水性、耐候性も良好で、水系と溶剤系の両タイプがあることから内外装を問わず色々な部分で使用されている。
ポリウレタン樹脂系塗料	樹脂中にウレタン結合を持った塗料の総称で、付着性、耐水性、耐薬品性、耐候性に優れている。通常、常温乾燥形のポリウレタン樹脂系塗料は2液形であるが、空気中の湿気で硬化する1液形もある。又、アクリル樹脂系塗料と同じく水系と溶剤系がある。耐久性に優れていることから、建築の外壁や鉄部などの新設から塗替えまで幅広く使用されている。
シリコン樹脂系塗料	樹脂中にシロキサン結合（ガラス質の硬い結合）を持った塗料で、建築塗装では一般にアクリルで変性されたタイプが使用されている。防汚性、付着性、耐水性、耐薬品性、耐候性などが優れることから、建築物の高級仕様として使用されている。光沢の保持性に優れ、ポリウレタン樹脂系塗料以上の性能が期待できる。
ふっ素樹脂系塗料	ふっ素樹脂系塗料は樹脂中のふっ素原子の強い結合力により、耐水性、耐薬品性、耐候性などに優れた塗料である。価格は他の塗料に比べると高価だが、耐候性が非常に優れていることから、塗替えの難しい高層ビルや橋梁などにも多く使用されている。これまで溶剤系が主に使用されてきたが、水系も使用されつつある。
油性系塗料	油性系塗料は、油脂を主原料とした塗料の総称で古い歴史を持つ塗料である。現在一般に使用されている塗料は合成樹脂を用いたもので、油脂量の多少により合成樹脂調合ペイントやフタル酸樹脂ペイントと呼ばれている。乾燥が遅く、耐候性、耐水性が劣るが比較的安価で、屋内の木部や屋内外階段手摺、鉄扉、窓枠などによく塗装される。
遮熱塗料	建物の屋根や外壁に太陽光があたると、その熱によって建物内部の温度の上昇がみられる（主に近赤外線の効果による）。特に夏場には、屋内の温度上昇を抑えるために、クーラーの電力消費量が増大し、ひいては地球温暖化へ影響を与えてしまう。これを改善する方策の一つとして、塗料中の特殊顔料効果により、太陽光を効率よく反射し、建物内部の温度上昇を抑える機能を持った塗料を遮熱塗料という。
シーラー	モルタルやコンクリートなどの無機建材用（素地）として用いられる下塗材をシーラーと称している。シーラーは、素地に対する付着性やその上に塗る中塗材との付着性をよくする働きを持っている。又塗替えの場合は、既存塗膜との付着性を高める効果も有している。シーラーとしては、水系と溶剤系塗料があり、新設や塗替えの違い、あるいは下地の状況によってその使い分けをしている。
微弾性フィラー	このフィラーは、主に塗替え用のフィラー（シーラーにより厚膜に塗る塗料）として隙間、穴や小さなクラックなどを埋める（充填材、目止め材）目的で用いられる材料である。新設の場合は、下塗材として一般的にシーラーが用いられるが、塗替えの場合は、既存塗膜の表面にクラックがみられることが多く、このようなクラックを埋める効果と既存塗膜と中塗材への付着性においても優れた機能を有している。
可とう形改修塗材	主に塗替え用で使用される塗料で、主材（微弾性フィラー）と上塗材（水性つや有り塗料など）から成っており、JIS A 6909 建築用仕上塗材の規格品の一つである。主材、上塗材とも水系が主流である。
変性エポキシ樹脂系塗料	金属面に付着性のよい下塗塗料として使用されている。近年、弱溶剤系のタイプも市販されており、上塗塗料の選択性が少なく各種上塗塗料を塗装することができる。